

石川高専環境都市工学科

津田誠研究室は30日、津幡

町内で、地元住民が主体と

なって橋の点検を行う「

橋梁きずなプロジェクト

」を始める。道路法で定

められた5年に1回の定期

点検に加え、使用頻度の高

い住民が簡易的な点検方法

を学んで実践し、橋のトラ

ブルの早期発見、長寿命化

につなげる。県内初の取り

組みで、町内を中心に活動

の輪を広げ、全県に波及さ

せたい考えだ。

プロジェクトは石川高専

が津幡町、県コンクリート

診断士会と協力して実施す

る。住民には路面のひび割

れやガードレールの変形な

どの28の確認項目を記した

簡易チェックシートを配布

し、日常的な点検に生かし

てもいい。

全項目の一斉点検は年に

1回程度で行い、橋の継ぎ目

や路面の水を橋の下に流す

「排水桝」に詰まった泥を

かき出す「橋の歯みがき」

作業の実施も依頼する。こ

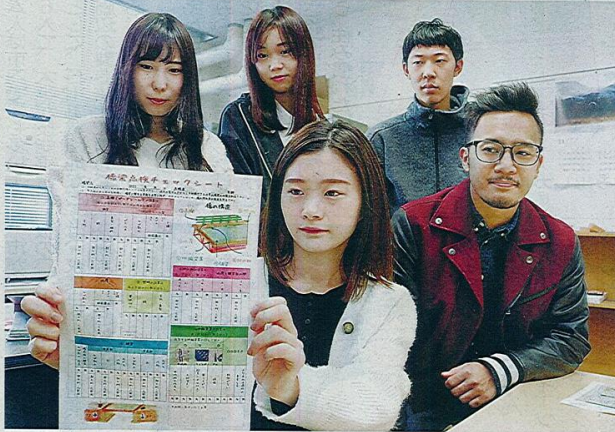
の作業により、適切に水が

排水され、橋の大敵である

住民主体 橋を点検

津幡、あすから

石川高専「きずなプロジェクト」 長寿命化へ産官学連携



さびの防止につながる。

橋やトンネルなどの交通

インフラの老朽化対策につ

いては、2012年12月に

9人が死亡した中央自動車

道笹子トンネル（山梨県）

の天井板崩落事故がきっかけとなり、5年に1回の定

橋の点検シートを紹介する
学生 石川高専

期点検が自治体などの管理

者に義務付けられた。

同研究室によると、国内

には点検対象となる全長2

キロ以上の橋が約70万本あ

り、その約7割が市町村管
理の橋となっている。19
70年代の高度経済成長期
に多くの橋が建設されてい
ることから、全国的に老朽
化している橋が増えてお
り、点検需要は高まってい

るといふ。
卒業研究として取り組む
5年の坂井真奈美さん(20)
は「点検を通じて地元の橋
に愛着を持ってほしい」と
話し、津田准教授(49)は「融
雪装置などがある石川の橋
の特徴も盛り込んで、実施
方法の『石川モデル』を確
立させたい」と意気込んだ。
30日には同町東荒屋地区
で住民対象の現地説明会を
開き、石川高専生が橋の構
造や維持管理に関する点検

のポイントを解説する。そ
の後、実際に地区内にある
橋4カ所で簡易点検を実施
する。